

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271102347		
法人名	有限会社 シャローム		
事業所名	グループホーム希望の家		
所在地	長崎県西海市西彼町小迎郷1074-3		
自己評価作成日	平成25年8月31日	評価結果市町村受理日	平成25年11月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	平成25年10月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①「夕暮れ時にも輝く人生」を理念とし「入居者が主役スタッフは脇役」の標語のもと尊厳をもって介護している。
 ②海と山とミカン畑に囲まれた1000坪の広々とした土地にありながら、国道やスーパーにも歩いて行けるので利便性がある。
 ③キリスト教理念で経営しており納骨堂を完備している。牧師がいるので希望すればチャペルでの葬儀も可能である。
 ④看護師・介護師が連携しターミナルケアに取り組んでいる。
 ⑤血液サラサラ食である野菜・海藻・豆類・イモ類を中心に朝昼晩ともに、1汁3菜に果物を付けた献立を工夫している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念である「夕暮れ時も輝く人生」は利用者の尊厳を重視した支援に具現化されている。例えば、言葉による身体拘束も含め防止する取組みは、毎月目標が実践できたかの評価を行い、次へ繋げるPDCAサイクルが確立している。また、居室のベッドメイキングや利用者の故郷訪問、看取りの取組み、排泄の自立支援など利用者本位の日々の支援が理念に通じていることが確認できる。運営推進会議では民生委員のサポートで会合に向き事業所の説明を行う機会を得たり、次回は老人会へ説明する予定があるなど運営に反映している。食事は各ユニットで異なっており、それぞれに3食とも6品の提供があり、利用者の健康を支えている。また、事業所の各所に標語を掲示し、職員が常に意識するような工夫もある。常に利用者が幸せに暮らせるよう、尊厳を重視した支援に努めている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づいて毎朝ユニットで唱和を行っている	たわいもない日常の幸せを利用者に味わって欲しいという思いを込めた理念「夕暮れ時も輝く人生」と3ユニットごとに作成している標語を唱和し、職員への浸透を図っている。また、理念を共有し実践するために項目ごとの振り返りチェックを行い支援に反映する仕組みがある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所にスーパーに入居者と一緒に買い物に行っている。夏祭りには地域の店にチラシを配布している。敬老会は市内のホテルを利用している。	体調などに配慮しながら事業所で飼っている犬の散歩に利用者と一緒に出かけ、近隣住民と挨拶を交わしている。事業所の夏祭りには地域にチラシを配り、近隣から5、6人の参加があった。また、民生委員の会合に出向きグループホームの特長などを説明するなど交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員の集まりに代表者・管理者が参加し、グループホームの活動内容を発表した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では事故報告や行事内容グループホームの最近の状況を報告している。	運営推進会議は年6回規程のメンバーで開催されている。会議ではメンバーである民生委員から地域の老人会で認知症についての講話を行ってはどうかという提案があり、現在計画中である。ただし、議事録には質問に対する報告の記録など具体性が不足している。	運営推進会議の議事録は内容を具体的に記入することで課題の検討や振り返りに役立つと考えられる。議事録について検討が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の会議の中に市の職員が出席しているので、事業所の状況を報告している。	事業所の研修委員が行政の出前講座に申込み、これまでに「腰痛予防」「カロリー計算」などを受講しており、次回は「人材育成」の講座を予定している。市の担当者とは日頃から疑問点を聞いたり相談できる関係を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を通して言葉の拘束をしないような声かけをしている。	事業所には身体拘束委員会があり、年に4、5回身体拘束防止に向けた標語を作成している。また、「はいはい」「ほらほら」など重ね言葉や「して下さい」という丁寧であるが命令口調なども身体拘束にあたるとして日頃から職員に説明し、互いに勇気を持って注意し合うことを薦めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が見過ごされない様に毎朝身体確認を行ったり、委員会を通して話し合いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会がない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に書類にて説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アンケート用紙を入口に設置し、面会の時に要望を聞いたりしている。	家族には訪問時や電話で近況を報告し、要望などを聞き取っている。遠方の家族には近況報告を2ヶ月に1度郵送し、利用者本人の要望に沿って電話を掛けるなど支援している。99歳のお祝いを利用者の地元の公民館で行い、地元で馴染みの方々や家族と祝っている。家族に向けたアンケートを考案しているが、実行は未定である。	家族の要望などを聞き取る方法として家族アンケートは有効と思われる。実行されることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフミーティングで職員の意見を聞き、よい意見は取り入れている。	毎月のスタッフミーティング、年1回の管理者との個人面談時に職員の要望や意見を聞いている。また3ヶ月に1度社内研修を実施している。職員は意見を表しやすい環境であり、風呂場用の腰掛椅子の購入検討や防災用の屋外非常階段設置など職員の意見が反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自に担当の委員会の参加してもらい、発表する機会を設けている。給与は税理士と相談しながら勤務状況を把握して考察している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に出来る限り参加している。施設でも研修生を受け入れ職員の資質を高める努力をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年に2回他のグループホームと交流を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される以前に本人に会いに行き、状況を収集し安心して生活できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族と話し合いをし、不安を知り要望に耳を傾けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入時、本人と家族がまず必要としている支援を見極めて適宜対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来るお手伝いをして頂き、職員も一緒にすることで関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族はいつでも必要時面会に来られるようにし、絆が保たれるよう環境整備をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人との関係が途切れない様に、希望すれば訪問している。年に2回自宅や地域を訪問している。	家族の協力による外泊や馴染みのタクシー運転手送迎の美容室への外出、年2回の故郷訪問など職員は利用者と馴染みの人との関係継続支援に努めている。帰省時に利用者が過ごしやすいよう、家族が自宅を車椅子仕様で改装するなど、利用者本位の支援に繋がっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブル配置を工夫し会話ができるようにしたり、お手伝いなどを通して入居者同士支え合えるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後は特に連絡をとっていないが、相手から連絡があれば支援に応じる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴中など一対一になった時にどんな思いをしているのか、どんな暮らしをしたいのか聞いている。	利用開始時に家族から情報を得ている。職員は日々の着替えや入浴時の1対1の場面で利用者の希望や意向を聞きだすよう努めている。表出困難な利用者には、質問を投げかけて表情や仕草から思いを汲み取っている。把握した情報はアセスメントシートに記載し、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	出来るだけ若いころの話の聞いたりファイルを見たりして経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の状態・行動を記録し、その把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のスタッフミーティングや緊急ミーティングを通して、必要時家族にもおいで頂きスタッフと話し合い、お互いに入居者の為の意見を出し合っている。	面会時に家族の要望を聞き取り介護計画に反映している。月1回のケア会議で検討しているが、利用者の様子を見ながらミーティングを行い週ごとに計画を変更することもある。更に利用者が病院退院後には利用者の状態に沿ったプランとなるよう立て直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録表やケアプラン実施表にて記録を共有し見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズに合わせて、デイケアに行くようにしている。		

グループホーム希望の家 ユニット1,2,3共通

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源のボランティアを活用し訪問してもらったり、介護タクシーを利用して買い物やお見舞いに行ったしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月一度の訪問診療を受けていて、必要時に専門医への紹介を受けている。本人家族が希望する病院にも受診することが出来る。	かかりつけ医の受診は継続しており支援している。事業所の協力医は24時間対応可能であり、本人・家族の了解を得た場合、かかりつけ医を変更している。外科など専門医にかかる場合は協力医の紹介を受けるなど本人や家族が安心できるよう適切な医療体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は入居者の変化に気付いた時は、看護師に相談し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院する場合は早めに情報を提供し、病院関係者との関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化しそうな場合は家族・管理者・かかりつけ医と相談し、方針を決めている。	契約時に看取りの指針を説明し、重度化する前に医師、家族、管理者が話し合い、同意を得てターミナルケアの契約を結び支援している。看取りの段階に入ると協力医療機関の看護師の訪問が始まり、主治医の指示を仰ぎながら適切に対応している。職員は看取りに対する心構えなどを学び対応に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年一回消防署より救急法の講習会をしていただいている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年三回火災訓練を行っている。	年3回避難訓練を実施しており、内1回は消防署立ち合いで行い、夜間想定での訓練を行っている。地域へ訓練参加を呼びかけた際には警察署からの参加があった。備蓄品は準備しており、避難場所も確認している。ただし、緊急連絡網の作成がまだであり、地域の消防団への協力依頼もこれからである。	災害時には地元消防団の協力を得ることが必要となることもあるため、まずは事業所内見学から依頼することが望まれる。また緊急時の連絡網を整備することや避難訓練の回数を多くすることで職員の経験を積むことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導時にトイレに行きましようでなく、あちらに行ってみましょうなど、羞恥心を刺激しないよう気を付ける。利用者の体にさわるときは必ず声かけをする。	利用者の個人情報とは所定の場所に保管している。薬を塗る時は居室で行い、失敗した時もスタッフ間で通じる合言葉を使い、周囲に気づかれないよう配慮している。また、便りの写真掲載は家族の同意を得ている。ただし、男性トイレについては、羞恥心に配慮が必要である。	トイレは男女同じ空間であるが、羞恥心に配慮した工夫が求められる。利用者本人はもちろんのこと、外部からの訪問者についても安心して使用できる快適なトイレとなるよう配慮を期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かを行う場合可能な限り本人を選んで頂く。どうされましたかなど、利用者が自分の考えを口に出しやすいような声かけをする。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本当はひとりひとりのペースに合わせないといけないが、職員側のペースになっているのが現実である。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴や起床時等更衣の場合、可能な限り本人の希望を聞き、それがかなうよう努力している。入浴後のブラッシングを本人にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皮むきやにがりのワタ取りなど、下準備を手伝って頂く。味見をしていただいたり、お盆を拭いていただいたりする。	3ユニットごとにメニューは異なっており、利用者の好みを把握し、果物まで含め6品を提供している。敬老会やドライブでは外食することもある。季節には梅干し作りを利用者と一緒に行ったり、お弁当を持って花見に出かけるなど利用者にとって食事が楽しみとなるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食欲や好みに合わせて食事の分量を調整する。飲み物はお茶や麦茶ばかりでなく、時には甘いものや冷たいものを用意する。体調がすぐれないときは体調がよくなる飲み物を提供する。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立の方は歯磨きをしていただき、出来ない方はスタッフが口腔ケアをしている。休む前に入れ歯はポリドントで清潔にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	昼間は全員布パンツを使用しており、排泄時にはトイレに行って座位で見守りや声かけをしている。	排泄チェック表を作成し、個々の排泄パターンを把握するよう努めている。その結果、利用開始前はリハビリパンツだった利用者が昼間は全員布パンツ使用に改善している。座位保持の困難な利用者がシャワーチェアを使用することで座位での自力排泄への改善に繋がるなど職員は排泄の自立支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維の多い野菜中心の献立をつくっており、水分補給も心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2、3回は入浴をしていただくが、その日の体調により声かけをしている。	毎日、湯を沸かし入浴の準備を行っている。利用者の体調や意思に沿って、週2、3回の入浴支援を行っている。また、毎朝、清拭を行っており、入浴拒否の場合はトイレ誘導後からの浴室へ誘導するなど声かけや対応を工夫している。季節によって菖蒲湯・ゆず湯などを準備し、入浴を楽しめるように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後一時間休息していただいたり、夜間はエアコンを調整し眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師との連携により最小限の服薬を心掛けている。副作用が出た場合はすぐに医師に報告し、減量や中止を依頼している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お盆拭き・掃除・ゴミ袋作り・洗濯たたみなど、ひとりひとりにあったお仕事をさせていただいて、気分転換に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、買い物同行、外気浴などしていただきながらお話を聞くように努めている。介護タクシーを利用して買い物へ行く方もいる。	日常は利用者の希望に沿って、事業所周辺の散歩や近隣のスーパーへの買い物など外出支援を行っている。行事年間計画を作成し、花見・ドライブ・近隣ホテルでの敬老会など車椅子利用者も含め、定期的にイベントを企画し、利用者が外出する楽しみを支援している。	

グループホーム希望の家 ユニット1,2,3共通

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力が低下しているため、お金を所持したり使えるようになってはいないが、理解できる方は自分でお金を所持したり使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望すれば電話をかけるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに観葉植物を置いたり音楽をかけたり生け花などで季節感をだしている。	3ユニットごとに広いリビングの一角に畳スペースがある。それぞれのリビングには音楽が流れ、観葉植物や犬を飼っており、家庭的な雰囲気となっている。利用者は思い思いに過ごしており、食事に使う豆を選別したり、犬と戯れることを楽しみにしている。掃除は毎日職員が行い、気になる臭気もなく快適な空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	数か所にソファやマッサージチェアがあり、おのおのが好きな場所で過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	懐かしい写真や大切なものを持ってきてもらい、安心できるよう配慮している。	各居室は、利用者の好みの物や友人、知人、家族の写真などを飾っている。職員が毎朝ベッドメイキングを行い、押し入れの中も整理整頓している。また、冷暖房による乾燥を防ぐための工夫も行っている。毎朝清掃しており、換気も良く清潔で快適な居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険なものを置かないように安全に注意している。作業が出来る方には安全に使えるように、手が届くところに準備している。		